

第18回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

1 日 時：平成27年11月10日（火）14：00～16：00

2 場 所：総務省10階1002会議室
千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館

3 出席者：（委員）

- ◎ 亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）
- 黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）
- 兼川 真紀（弁護士）
- 斎藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）
- 榊 誠（公益財団法人あしたの日本を創る協会理事長）
- 名越 健郎（拓殖大学海外事情研究所教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

佐伯 修司 官房審議官
河合 暁 管理室長
両角 明 企画官

4 議事次第

- （1）「平成27年度平和祈念展示資料館運営業務実施（見込み）報告」についての説明
- （2）「中期事業計画の提案」についての説明

5 議事要旨

- （1）「平成27年度平和祈念展示資料館運営業務実施（見込み）報告」についての説明
委託事業者から説明が行われた。
- （2）「中期事業計画の提案」についての説明
委託事業者から説明後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- インターンシップや学芸員課程の博物館実習について、次年度もすでに大学からの申し出があることは良いことだ。

- 平和祈念展示資料館の図書コーナーで調べ物をする人も増えているようなので、複写サービスについて検討していただきたい。
- 校長会などの学校関係者にプレゼンテーションを行ったのは良いことだ。若い教員にどう働きかけていくかが重要となるだろう。
- 若い世代に継承していくことを考えると、来館者のターゲットを若い世代に設定し、修学旅行などで来館してもらえるよう取り組んでいただきたい。
- 記憶を継承するため、子どもが修学旅行だけでなく、夏休みの宿題のために来館するよう、夏休みイベントを実施するという事は良いことだ。
- 語り部が高齢化し、新しい語り部の確保も難しい。今後の語り部活動は、映像を撮影しビデオライブラリーで視聴できるようにするなど、工夫が必要になるだろう。
- データーベースの作成にあたっては、大学や高校の授業で利用されたり、子どもにも使ってもらえる工夫をしていただきたい。
- 平和祈念展示資料館の所蔵資料も歴史的価値の高い資料が多い。有効な活用方法を考えていただきたい。
- 観光・旅行ガイドにおける平和祈念展示資料館の評価は、結構良い評価であった。広報活動が直接的に影響しているというよりは、日々の運営努力が波及的に効果として表れてきているということではないか。
- 保守系の雑誌は広告掲載料が安いことに加え、読者層を考えると来館者数増加の効果が期待できる。魅力あるイベントを開催する時期に合わせ、広告を載せてはどうか。
- 新聞のラジオ・テレビ欄に広告を載せたりするなど、さまざまな広報展開をしているが、若い人は新聞を読まないなので、広報媒体に工夫の余地があるのではないか。